

平成 25 年度大学職員情報化研究講習会～応用コース～
第 2 分科会 C グループ討議記録報告

C グループでは、まず、事前研修レポートをもとに自己紹介を行い、事例紹介(1)、事例紹介(2)について、自由意見を述べるかたちで討議を進めました。討議では以下の意見が出されました。

■事例紹介 1 (Web サイトで可視化する教育課程体系化への取り組み)

- ・事例紹介での、ICU の教育への取り組みを聞いて、学生の面倒見が非常に高い大学であることが分かる。
- ・GPA を厳格に運用する上で、成績評価に差が生まれる事が問題となる。例えば、同じ科目でも、教員によって成績の付け方に差があると、簡単に単位を取れる(比較的良い評価を取りやすい)教員の方が、人気が出やすいのが現状である。(ICU ではレベルの高い(厳しい)教員の方が、人気があるという報告であったが。)もちろん、楽だからという選択肢で科目を選択しない学生もいるが、そのようにならないためのツール(シラバスの明確化や成績評価の方法の明示)の充実に取り組む必要がある。
- ・ICU の様に、GPA の一定の値で「除籍」等の判断をする大学は非常に少ないと思う。
- ・成績証明書(学外公開)には、GPA の値を表示させているので、学生は少なからず意識していると思う。
- ・GPA の値をどう活用しているかであるが、奨学金の選考、留学生の選抜選考、ゼミの選考等、学内での活用に留まっている大学が多い。企業としては、大学毎に GPA の算出基準が異なるので、成績に記載されている GPA や、そもそも成績評価の値について、あまり意識していないと思う。
- ・数年前に学生ポートフォリオがクローズアップされたが、その後あまり浸透していないようである。ツールとしてはあるが、大学としてどのようにポートフォリオを活用していくのかが、はっきり見えていないのではないかと。運用する側の課題がまだ残っていると思う。
- ・殆どの大学が、統合サイト(学生個人紹介画面、履修状況画面、成績表示画面)で留まっているという状況である。
- ・ナンバリングを導入している大学では、学生の履修の目安になるという役割を果たしている。
- ・ナンバリング導入を検討するにあたって、学部間の意識統一が出来ていないことや、大学によって、カリキュラム編成の権限や仕組み等のシステムが異なるため、解決策が見つけにくい。

■事例紹介 2 (ラーニング・コモンズ構築を基盤とした組織的な教育改革の取り組み)

- ・同志社大学のように、専門教員を配置することが非常に難しいことであるが、そこまで出来るよう取り組むことが非常に大事かと思う。
- ・同志社大学の事例は、建物の充実はもちろんであるが、それ以上に学部を越えた組織作りや調整力を持つことがいかに重要であるかが示されていた。
- ・各大学で事情は異なるが、事務から教員へ情報提供できることが大切である。
- ・規模が大きく自大学と比較することが難しいが、アクティブラーニングの必要性を改めて感じている。
- ・アクティブラーニングの設備として設置している大学にもよるが、あくまでも図書館の発展系という形を取らないと 予算取りや専任職員の配置も難しいため、折角の設備がアクティブラーニングとの関連性が薄まっている印象がある。その点から考えると、同志社の取り組みは斬新である。また、アクティブラーニングを常態化させるような科目の設定を並行して考えることが有効になるのではないかと。思う。